苅田の歴史紹介

園芸史研究家 農学博士
寺田孝重

§はじめに

今、私達が住んでいる「住吉区苅田」という地域は、どんな歴史を持っていたのでしょうか？

先年、府営苅田団地の建て替え工事で発見されました、苅田4丁目遺跡や大和川の対岸で見つかった、大和川左岸遺跡など中世の遺構で古い物ではありませんが、この地域のことを知るのに貴重な知見が、近頃沢山見つかってきました。

また、大和川と言えば、この川が人工の川であり、5年前の平成16年(2004)に付け替え300年を迎えた事やこの付け替え工事で被害を受ける側にたった我々の先祖が展開した反対運動の事など、皆さんは知っているでしょうか。

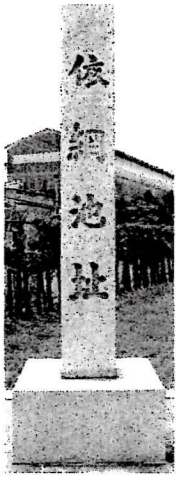
もっと身近なことでは、ほんの少し前までこの地に「八反池」「今池」「湧水池(わきすいけ)」をはじめとして沢山の池があり、条里制の名残を残した水路が網の目状にこれらをつないでいたのも、だんだん忘れられています。

このように、様々な時代を刻んできました苅田の歴史の一端を紹介したいと思います。

§古代から中世へ

昭和32年(1957)苅田小学校の本校に当たります、依羅小学校が創立85周年を迎えました記念に、地元の大阪市立大学の山崎隆三先生が地域を調査され『依羅郷土史』を作られました(刊行は昭和37年)。皆さんのお家にも1冊あるかも知れません。

この時の調査で、先生が私の家にも古文書調査に来られたのを覚えていますが、本を見る限り、父は古文書の存在をあまり知らなかったらしく、ほんの少し見て頂いただけのようでした。

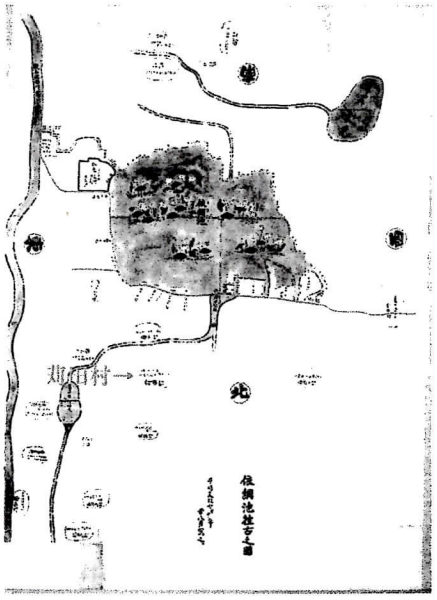


この中で、先生は古代から近代にいたります、この地域の歴史を調べておられますので、これに準拠しながら、話を進めましょう。

この地域が歴史に登場するのは、「記紀(古事記や日本書紀に描かれる時代)」に遡ります。もちろん、難波の宮の近辺にあるわけですから、日本の歴史の最初から現れても不思議ではありません。

この「記紀」に「依網池」の築造が出てきます。この池は現在の大依羅神社から苅田南小学校や大阪市立大学などを含む広大な池で、西面は上町台地を自然の堤防にし、北、東、南の三面に堰堤と取水口をもうけた、浅く広い池だったと言われます。そして、そのほとんどを、宝永元年(1704)の大和川付け替えで失いますまで、この地域の水利の要となって機能しました。またこの池は、上流の狭山池と西除川を通じて連動していましたので、大阪平野の南半分の灌漑を担っていた重要な水系だったのです。

この池のことは、万葉集にも「水たまる よさみの池」とうたわれたり、「依羅屯倉(みやけ)」が置かれたり、この管理者として「依羅宿禰(すくね)」の存在が知らていますし、私の家に残っている我孫子村の絵図には、条里制の敷かれた田畑が描かれているなど、地域全体が古代の重要な穀倉地帯であったと思われます。



依網池往古之圖 文政7(1824)年 写